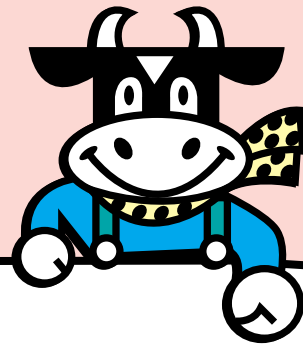


ワンポイント・アドバイス



寄生虫駆除の薦め

寄生虫駆除で生産性アップ！

牛には、健康な牛でも様々な寄生虫が寄生しています。体表に寄生するのは疥癬(かいせん)やシラミ、逆に体内に寄生するのは線虫類など。今回は特に疥癬について紹介します。疥癬などの寄生虫を駆除することで生産性が向上します。

疥癬とは？

ダニが皮膚に寄生する病気です。主に尾根部、後肢の上部に寄生して皮膚炎を起こし、強い痒み(かゆみ)を生じ、脱毛、かさぶたとなります。

特につなぎ飼いの牛は、尾根部などの痒いところを自分で掻くことができず、痒みのストレスで、食欲や乳量低下を

ります。また、疥癬だけでなく、体内に寄生する線虫類駆除にも効果があります。アイボメックは約1カ月の出荷制限期間があるので、乾乳前期に使いましょう。疥癬は、飼育環境の改善(換気、採光)によって予防もできます。疥癬の牛が多くいるようでしたら、環境面を見直すことも必要です。

治療の効果は？

釧路での報告によると、上の方法による乾乳期の疥癬駆除で、305日補正乳量で約200キロ(!)の乳量増加が確認されたそうです。また、駆除後は体細胞数の上昇抑制効果もあるとのこと。これらの効果は、牛が痒みのストレスを感じなくなつたために得られるものと考えられます。体内の寄生虫駆除で、栄養が十分に利用できるようになるという側面もあるかもしれません。

また、親牛の体内の寄生虫が分娩前に駆除できることで、生まれてきた子牛が寄生虫に感染するのを抑え、下痢をしにくくなる効果も期待できます。

たします。疥癬のダニは、牛と牛が接触することによってつづります。



疥癬ダニ

治療法は？

牛用の殺虫剤を使います。お薦めしたいのが、乾乳期にアイボメックトピカル

費用対効果

アイボメックトピカルは、1ℓ約2万円でお渡ししています(保険はききません)。高い！と感じるかもしれませんが、成牛一頭当りに使う量は65ml。一頭当たりになると1300円ほどです。乾乳期の寄生虫駆除で1500キロ乳量が増えたとして、10万円の乳代増となります。それに体細



アイボメックトピカル

胞数や子牛の下痢の抑制効果も期待できるとなれば、決して無駄な投資ではないと思われます。ぜひ、搾乳の時に牛のお尻を注意して見てみて下さい。もし、痒そうなお尻を見つけたら乾乳期の駆除を試してみてください。

を使う方法。アイボメック(液体)を背中にかけるだけで非常に簡単です。背中にかかった薬剤は全身に浸透していき、約3週間で疥癬が治癒し、痒みがなくな



疥癬に寄生された牛の尾根部